

サカイウ

2018 AUTUMN

自分で考えるサッカーを子どもたちに。

日本初

サッカーを通じた教育を
発信します

柴崎 岳選手の恩師
青森山田高校
黒田 剛監督
インタビュー

vol.

28

KIDS

相手を
マークするコツを
身につけよう!

特集

子育てのプロに聞いた
文武両道
5つのコツ

〇〇な秋を有効活用!

この秋におこなう、ひと工夫

こころを強くしてあげるために
子どもをもっと
自主的にするヒント



● サッカーで身につく2つの能力 ●



サッカーは補助線を見るスポーツだと高濱さんは言います。見えない線を見えるようにする作業をしているため、範囲を狭めて答えを絞り込んでいく考え方が自然と身につきます



『詰める力』は最後までやり抜く力のこと。思考力、発想力を養い、物事を形にするのに不可欠な「我慢」や「忍耐力」身につけるためには、スポーツをすることが適しているのです

サッカーと勉強の両立は学習効果を高める

人間力を育てる塾として話題を呼んでいる花まる学習会。その代表を務める高濱正伸さんは、サッカーをはじめとするスポーツには、「メシを食うための基本」のエッセンスが詰まっていると言います。「メシが食える」能力を身につけるために大事なのは『見える力』と『詰める力』。「『見える力』を身につけるには、サッカーが最高ですね。算数や数学で思考力の差が生まれるのは、図形問題で“補助線”が引けるかどうか。サッカーって補助線を見るスポーツじゃないですか。あいつにパスしたらこうつながって、シュートまでいける。つまり見えない線を見えるようにする作業をしてい

るわけです。補助線を引くというのは、考える範囲を狭めて答えを絞り込んでいくことなので、サッカーをプレーしていれば自然とこういう考え方が身につくわけです」「『詰める力』は最後までやり抜く力のこと。これはスポーツ全般で身につけられることだと思います。東大の数学の問題なんかは、長い時間かけて解いていると途中で『もういいや』となる。結局、絶対やる、やり抜くという執念がある人しか解けないんです」「最後までやり抜く力」は、思考力、発想力を養い、物事を形にするのに不可欠な力です。我慢や忍耐力を身につけるのに、スポーツほど適したものは無いでしょう。

勉強の秋



サッカーで大事な能力が身につく！

伸びる子どもに共通する
“見える力”と“詰める力”

「子どものころにスポーツをやることは、将来に役立つ！」
独特の学習法で教育界を席卷する花まる学習会の高濱代表の講演内容をヒントに、子どもたちが「サッカーをする意味」とその効果について考えてみましょう。

取材・文 ● 大塚一樹



花まる学習会代表
高濱正伸さん

1993年に「メシが食える大人に育てる」という理念のもと「花まる学習会」を設立。『伸び続ける子が育つお母さんの習慣』など著書多数。

詳しく読むなら！

サカイク

